

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月5日

【評価実施概要】

事業所番号	3270400710		
法人名	社会福祉法人 ひまわり福祉会		
事業所名	グループホーム ひだまり		
所在地	島根県出雲市神西沖町2452-1 (電話) 0853-43-3755		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43		
訪問調査日	平成20年7月28日	評価確定日	平成20年8月26日

【情報提供票より】(20年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 21 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤8人, 非常勤12人, 常勤換算15.7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄構造平屋建て 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(7月1日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名	
要介護1	2名	要介護2	6名			
要介護3	5名	要介護4	4名			
要介護5	1名	要支援2				
年齢	平均	86歳	最低	74歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	出雲医療生協病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設5年目、1ユニットが6名という家庭的な少人数のホームで20名の職員のもと、きめ細やかなケアが目指されている。勤務体制の見直しにより3ユニット全体を考えていくケアに取り組み、夜間2人体制、朝夕は手厚い体制をとり、引継ぎが充実してきた。ユニット間の連携が図られ、利用者は相互に訪問し、お茶会を楽しんだり、ホールの仏様を拝んだりしている。中庭では亀の子が7匹生まれ、利用者が亀日誌をつけ楽しんでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 「食事への取り組み」「全職員での自己評価」「同業者との交流」「介護計画の見直し」については出来るところから取り組まれている。「運営理念」「市町村との連携」「重度化や終末期に向けた方針の共有」は取り組みがこれからである。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ホーム長は職員の気づきを大切にしたいと考え、パート職員も含めた職員で評価に取り組みリーダーがまとめた。全員で改善点を明らかにしていくことはこれからである。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回利用者代表も出席され、ホームの状況や活動、研修、などが報告され重点課題について話しあっている。終末期ケアについての意見交換や半期の振り返りを行い次へ活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の訪問時に積極的に声をかけたり、年2回の家族会で家族の要望を引き出す努力をしているが意見が少なく、意見を聞くため家族アンケートを実施した。その結果終末期ケアのマニュアルを作成し、ホームの方針を考えていくことになっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 同一法人の事業所との交流はあるが、地域の人との交流は少ない。前年同様「ひだまり通信」を配布したり、祭りや花火などの地域行事への参加、ホーム行事「ひだまりカフェ」へお誘いしている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしい生活を支援する」というホーム独自の理念があるが、地域密着型サービスの役割を反映するのには不十分である。	○	地域密着型サービスとしてのホームの役割を考えた理念の検討が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をもとに日々入居者と関わっているが、話し合いや確認の機会が少なく、不十分などころもある。	○	理念の共有化に向けてさらに意識的な取り組みを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム便りを近隣の自治会へ配布したり、文化祭、祭りに参加している。ホーム行事の「ひだまりカフェ」へ近隣の方をお誘いする計画があるが、気軽に立ち寄っていただけるようにはなっていない。	○	立地条件の困難さはあるが、地域の中で必要とされる活動や役割を考えながら、地域との交流の仕方を工夫していただきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム長は職員の気づきを大切にしたいと考え、パート職員も含めた職員で自己評価に取り組みリーダーがまとめた。改善点を明確にするには不十分である。	○	ホーム長、職員と一緒に評価に取り組み、評価で見出された課題について改善計画を立て、その実施に取り組んでいただきたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況やホームの活動、研修報告などについて話し合いを行い、意見交換も良く行われている。半期の振り返りも議題に入っており次へとつなげている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	「ひだまり通信」を届け連携に努めているが、日常的に行き来する機会がない。	○	日常的に相談や情報交換を行い連携を図っていただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月に1回「ひだまり通信」を発行している。面会時に様子を伝えたり面会にこられない方には電話や写真、手紙で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が年2回持たれ、運営推進会議にも出席がある。日常生活やケアについて家族アンケートをとり運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員を育てるための法人内での異動があったため、利用者、家族に事前に伝え、不安への配慮をした。ユニットを移るときも納得が得られてからにしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同じ法人の行う研修会や外部の研修に段階に応じて参加しており、年間計画に基づき毎月学習会を開催している。パート職員の育成に力を入れている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の認知症グループホームの会に入り、研修や懇親会で交流したり、県の委託事業で事例集作成検討会にも参加している。近隣の3事業所に行事案内を出したり、訪問もしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が利用者宅を訪問をしたり、入居前に見学をして決められる方もあるが、家族の意見が重視されがちである。	○	体験入居なども含め柔軟な対応を望みたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で教わるが多く、入浴介助を通じ励まされた職員もいる。調理や畑仕事など一緒に行ったり、亀日誌をつけるなど楽しみを共有している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の協力も得てセンター方式を活用している。会話の中からも思いや意向の把握に努めている。本人の意向で特に大事な3つは皆が周知出来るように日誌に挟んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人にとって必要性を感じることを第一とした介護計画の作成に取り組んでいるが、本人や家族と話し合いが充分行われず報告だけになっている家族もある。	○	職員の意見中心の介護計画でなく利用者や家族、関係者の意見が計画に反映されるような工夫を望みたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月毎の見直しと共に、勤務時間を改善し申し送りを充実させたことで、変化や気づきに良く対応出来、随時見直しも出来ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、外泊、通院や送迎等、柔軟に対応している。ショートステイやデイサービス提供も前向きに考えている。	○	計画されているショートステイやデイサービスの実現に期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆んどの方がかかりつけ医を持っておられ、適切な医療を受けられるように支援している。利用者や家族の状況に応じて往診も行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族アンケートをとったり、重度化してきた場合、家族と今後について話し合いを行っているが、ホームとして重度化や終末期に向けた方針は共有されていない。	○	利用者や家族の意向を大切にしながら早い時期から話し合いを重ね、ホームとして最大限できることを模索し方針を共有していただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや対応で気づいたことがあれば、職員同士でお互いに言い合っている。記録などの個人情報は気をつけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペース、考えを大事にするようしているが、職員のペースになっていることが多い。	○	事業所の業務のスケジュールに利用者の生活をあわせることなく、利用者のペースに沿って見守りながら一緒に生活していただきたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週5日の昼食以外はほぼホームで調理するようになり、一緒に楽しむことが出来るようになった。朝食と週2日の昼食は買い物もホームでしている。朝はパン、ご飯、お粥が選べる。	○	グループホームにおける食事を生活支援の柱として位置づけて頂き、職員も一緒に食事を食べられるような工夫を望みたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴計画を立て利用者に声をかけながら支援している。	○	さらに、本人の希望に沿った支援を期待したい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理を楽しんだり、ユニット間でカフェを開き、手作りおやつで交流し楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候の良い時は散歩し、庭に野菜も育てている。買い物、美容院等、希望時には出来るだけ応じている。ドライブや花見、花火等、計画的な外出支援も行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず自由に入出入りすることができる。1名だけ不安をもたれる家族の要望で話し合いを行い、はき出し窓に二重ロックをしている人がいる。	○	利用者の状態を家族と話し合いながら、自由な暮らしの支援を引き続き検討していただきたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の人にも参加してもらい定期的に避難訓練を行っている。夜間は2名体制をとり、法人の協力体制も整えられている。備蓄品は隣接の法人で管理している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を記録に書き、特に気をつけないといけない方は別に把握している。お粥、刻み、ひとくちむすび、低カロリーメニュー等個別の対応ができています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に気をつけ季節の花を飾ったり、食卓の足元に手作りの足台を置いたり、仏様を置くなどユニットそれぞれに工夫している。紙の輪飾りや桜の造花が飾ってある。	○	手すりなど機能に合わせた対応や、飾り付けなど検討をお願いしたい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋室、和室があり、洋室に畳を入れている利用者もいる。出来るだけ使い慣れた馴染みの物を持ち込んで貰うようお願いしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。